

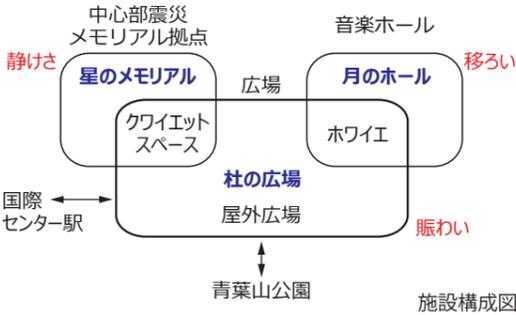
(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託に係る公募型プロポーザル

実施方針

①設計の理念と考え

星と月を広場でつなぐ

星を災害文化の、月を文化芸術のモチーフとし、「中心部震災メモリアル拠点」を**星のメモリアル**、「音楽ホール」を**月のホール**と名付けました。ふたつの文化のはし渡しを担うのが「広場」であり、その中心となる交流ロビーゾーンを**杜の広場**と名付けました。



【星のメモリアル】：中心部震災メモリアル拠点

東日本大震災が発生した2011年3月11日の夜、明かりが消えた仙台の空には満天の星が輝いていたそうです。静かに星を見上げ震災を思い返す、あるいは心の平静を取り戻す、そのためのクワイエットスペースを、青葉山公園に面した屋上芝生広場として計画します。

【月のホール】：音楽ホール

伊達政宗公は、兜は三日月型の前立てに特徴があり、辞世の句では月を詠んでいます。また月はドビュッシー、ベートーベン、フォーレをはじめ、多くの音楽家にインスピレーションを与えてきました。新月から三日月、満月へと相貌を変えるように、月は回転側面席によってサラウンド型コンサートホール形式からプロセニウム劇場形式へと完全に転換する本音楽ホールのメタファーでもあります。

【杜の広場】：交流ロビーゾーン

屋外広場を介して青葉山公園へとつながる杜の広場は、青葉山公園の木々と同じ高さの樹状メッシュ柱が林立する空間で、上部から木漏れ日のような光が降り注ぎます。杜の広場を核とした「広場」は、思い思いに時間を過ごす人々が共存し、交流し、創造する場となります。

周辺環境との調和

青葉山公園の樹木と、高さを揃えた樹状メッシュ柱の木立は調和、融合して、新しい広瀬川沿いの景観へと昇華します。クワイエットスペースとなる芝生広場は、あたかも樹冠面に浮かんでいるようで、星空に溶け込んでいくような夕夜景を形成します。

フローチャート

年度	R6年(2024)	R7年(2025)	R8年(2026)	R9年(2027)	R10年(2028)	R11年(2029)	R12年(2030)	R13年(2031)
月	12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11	12 1 2 3					
設計者	基本設計		実施設計		監理			
定例会議	●	●	●	●	●	●	●	●
ワークショップ	●	●	●	●	●	●	●	●
ハード	コストを抑え、施設使用者および市民の声を設計に反映する工程管理 与条件の整理と検討 利用状況の把握と想定を反映した計画 運営プログラムを念頭に置いた建物計画			詳細検討 積算とコストコントロール		現場常駐による工事監理 補助図面作成 施工図と設計図書との照合 施工に対する助言 音響測定と調整		
ソフト	音楽と震災文化を広場でつなぐ、持続的な運営をめざす複合施設づくり 開催イベント・利用状況の把握と想定 運営プログラムの方針検討 近隣・関連施設との協議 プログラム実現に必要な設備の検討 展示方針の検討			運営プログラムのガイドライン作り 展示計画の設計 近隣・関連施設との連携検討		ワークショップを通じた 運営プログラムへの参加呼びかけ 関連施設・イベントとの連携促進		
複合施設	管理運営指針の策定		管理運営の細目検討		指定管理者選定・開館準備			
音楽ホール	音楽ホール・小ホールの基本仕様検討		詳細仕様の決定 / 音響模型実験 / 音響測定と調整					
震災メモリアル拠点	展示および活動方針の検討		展示設計・施設設計		展示制作			
広場	広場の使われ方の検討と設計		広場の詳細仕様の決定		什器等選定・製作			

②設計を進める上で特に留意すること

できるだけ早期に仙台事務所を開設し、市民参加による複合施設づくりを基本設計段階からハードとソフトの両輪で推し進めます。基本設計と並行して進められる複合施設の管理運営指針の策定と相互にフィードバックを行いながら、複合施設整備アドバイザー、音響コンサルタントの協力のもと、発注主である仙台市と協議し、基本設計を進めていきます。

●ワークショップの開催による意見交換

計画のフェーズに沿った目標を設定し、その達成のプロセスを市民のみなさんと共有するワークショップを開催し、意見交換を行っていきます。

ワークショップを共催するのは、**音楽ホール**については、レジデントオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団の他、仙台オペラ協会をはじめとする地域の文化団体、アーティストや市民活動団体、**中心部震災メモリアル拠点**については、震災伝承に携わる方々、災害有識者などの関係者、**広場**については、ピクニック活動団体や市民活動団体、地域のアーティストや文化団体などを想定しています。施設のハードだけでなく、運営プログラム、イベントなど、ソフト面の検討にも参画し、市民の皆様可愛される施設づくりを目指します。

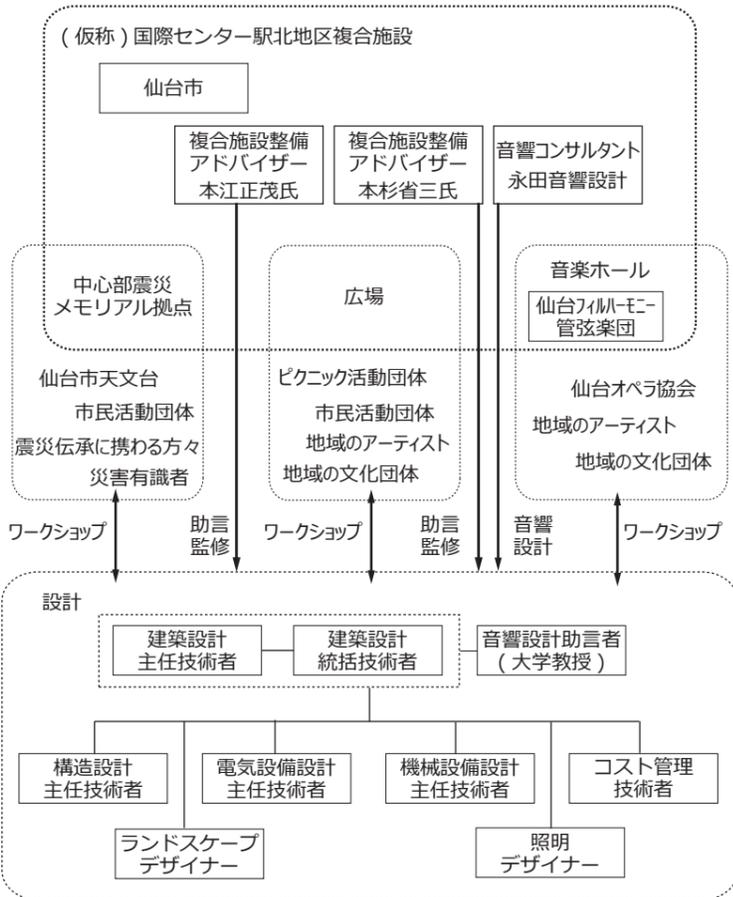
○検討イベント例：フラッグシップイベント開催を前提とし具体的な施設設計を行います。

1. 仙台クラシックフェスティバル…楽都
2. 復興コンサート…震災関連
3. 仙台フィル定期演奏会…レジデントオーケストラ
4. まめげつつあん（豆名月）…月／災害文化継承
5. ピクニックコンサート…青葉山との連携

●音楽ホールと震災関連施設の計画に精通した設計チームの組成

建築設計統括技術者（管理技術者）は、震災後、東北地方で複数の施設設計に従事してきました。また公共施設においてワークショップを通じて利用者と意見交換を行い、計画を具体化させてきました。建築設計主任技術者は、某市の複合施設（大中小の多目的ホール、音楽ホール、集会施設）の設計監理の実績があり、また開館から現在に至るまで25年間、維持管理および設備更新のアドバイスを行い、外構改修も担当してきました。展示施設については、某新設美術館の設立初期から設計のみならず、組織の組成、展示計画および展

組織の連繋



示設計まで行った実績があります。音響工学の専門家である大学教授を助言者とし、永田音響設計の音響設計のもと、クラシックからポピュラー音楽、演劇に至るまで、多様な目的それぞれに最適な環境を実現します。構造設計、設備設計、コスト管理技術者、照明デザイナー、ランドスケープデザイナーについても、ホールおよび展示施設に精通した専門家を起用し、チーム一丸となって設計監理に取り組みます。

③コスト縮減に関する提案

基本設計時より諸室の共用化などを検討、効率的な空間設計を目指し、コスト削減を図ります。また建築コスト管理士と定期的に設計内容を協議し、コストへの影響要因の早期把握に務めます。実施設計時には、複数回見積りを取り、予算に応じた計画をまとめます。

●機能想定と仕様決定：ワークショップなどを通じて関係者と丁寧に意見交換を行い、利用実態の想定を具体的にを行います。舞台機構、舞台照明など設備機器が過剰とならぬよう、必要十分な仕様として、コストの適正化を図ります。

●最適な構造構法、施工方法の検討：空間、機能に応じた構造構法および材料を選定します。杜の広場を構成する鉄骨の樹状メッシュ柱は工場で製造することとし、工事現場での作業を減少することによりコストを削減を図ります。床構造はコンクリート造の他、鉄骨とデッキスラブ、コンクリートのハイブリッド構法を検討し、仮設工事の削減、工期の短縮、ひいてはコストの削減を図ります。月のホールの外殻構造については3Dプリンターによる型枠を基本設計段階から検討し、型枠工事費用の削減を図ります。

●標準的製品の採用：舞台機構設備をはじめとする機械類については、特殊なもの、独占的に製造されるものではなく、可能な限り標準的な製品を採用することとします。複数業者が取り扱う製品として相見積りを徴収し、イニシャルコストの低減を図ります。メンテナンスがしやすい、また必要な箇所のみ修理、部品交換ができる仕様とすることで維持管理費用も抑えられ、長寿命化も図ることができます。また将来の大規模改修時にも工事がしやすいような納まりとします。

●長寿命の仕上・仕様：各種仕上材は耐久性・メンテナンス性に優れたものとするとともに、経年劣化のしにくい、あるいは経年変化によって風合いが増す素材を検討します。

●ランニングコストの低減：高断熱高气密化、日射遮蔽機能の向上、エネルギー効率の良い設備機器を導入するなど、省エネルギー性能に優れた建物とします。屋根面には太陽光パネルを設置し、災害等の停電時に電力供給が得られるよう蓄電池の導入も検討します。その他地中熱などの再生可能エネルギーを活用したエネルギー消費量の削減も検討します。また地下水、雨水を利用し、水道使用量の削減と水資源の節約に努めます。

●中長期修繕計画：中長期修繕計画の策定を前提として、設計および施工を行います。竣工後は、予防的な修繕・更新を行ったり、大規模修繕が必要となる兆候をとらえて必要な小規模修繕を行うなど、効率的な中長期修繕マネジメントを行うことで、大規模改修が必要となるまでの期間の延長させ、長期的なコストの低減を図ります。

④将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

●エリアゾーニング：建物は、大ホール、小ホール、中心部震災メモリアル拠点、広場、運営部門など、各機能ごとに分節化して配置します。改修工事の際は、特定の部分だけを閉鎖して改修・更新工事ができるよう、工事を行わない部分は継続使用できるように計画します。

●スケルトンインフィル：楽屋領域や運営部門の構造は、柱梁構造のスケルトンインフィル形式とし、将来、間仕切変更が可能な計画とします。

●サーバントスペース（設備スペース）の確保：機械室、電気室等の設備機器室は維持管理、修理・更新を十分に考慮して計画します。空調、衛生、電気など各種設備のルートはダクトスペース、パイプスペースとして確保し、維持管理、更新がしやすいように計画します。

エリアゾーニング



各階別の延床面積表

床面積	4階	3,768 m ²
	3階	7,394 m ²
	2階	9,424 m ²
	1階	4,290 m ²
駐車場を除く	地階	4,690 m ²
延床面積		29,566 m ²